

2012年(平成24年)4月18日(水曜日)

2012年(平成24年)4月18日 水曜日

民間主導の会社設立

いちき串木野市も出資、来月着工

いちき串木野市の西薩中核工業団地の工場屋根などに太陽光発電設備を設置し、団地ぐるみの発電・売電計画を進める「合同会社さつま自然エネルギー」が17日、設立された。地元企業が主導し、同市も出資。発電規模は一般家庭約950世帯分の約3400kwで、5月下旬から着工し、7月から順次稼働する。

濱田酒造(同市)の関連会社「パスポート」(川崎市、濱田総一郎社長)などが同日、いちき串木野市役所で記者会見した。濱田社長は「再生可能エネルギーは」



「さつま自然エネルギー」設立記者会見。合同会社の設立を報告するパスポートの濱田総一郎社長(前列左から2人目)＝17日、いちき串木野市役所

「拡大の機運を高める」小さな一歩だが環境維
社会的意義は大きい。「新の大きな一歩にした

い」とあいさつした。設立された合同会社にはパスポートと同市のほか、工業団地内の工場などを持つ濱田酒造、白石水産、勘場浦錦店など7社1団体が出資。総出資額は6350万円に上る。

計画では、合同会社事業の減価償却後、設備を各出資者に無償譲渡される。各出資者は譲渡される施設の発電量に応じ出資。いちき串木野市は市の施設で発電する500kw相当分の約1千万円を出資した。

工業団地内に約2千kw、市内各所の市施設などに約1千kw、一般家庭向けに約400kwの設備を11月ごろまでに設置。発電した電力は九州電力が買い取る予定。

2012年(平成24年)4月18日 水曜日

西 日 本 新 報

メガソーラー 合同会社設立

10企業・団体が出資

いちき串木野

鹿児島県いちき串木野市の西薩中核工業団地や関連会社「パスポート」(川崎市)が主導し、いちき串木野市の1千万円など10企業・団体が計6350万円を出資した。

代表社員にはパスポートの濱田総一郎社長が就いた。17日、正式に設立された。

計画では、団地内に出資約2千kw、市内の事業所や公共施設に千kwの計約3千kw(一般家庭約850世帯分)の太陽光発電設備を設置。7月施行の自然エネルギー全量固定買い取り制度を活用し、九州電力に売電する。投資額は約10億円。

5月下旬に工事に着手、11月までに設置を完了する予定。

記者会見した濱田代表

は、同市羽島から薩摩藩英国留学生が出発した4月17日を設立日に選んだと紹介し、「『環境維新』の第一歩を踏み出した」と意気込んだ。田畑誠一市長は「再生可能エネルギーのまちづくりは将来にわたる大きな財産になる」と話した。(上野和重)

いちき串木野メガソーラー計画 事業体の会社発足

2012年(平成24年)4月18日 水曜日



いちき串木野市の西薩中核工業団地に大規模太陽光発電所(メガソーラー)計画を進める事業主体の合同会社「さつま自然エネルギー」の設立会見が17日、市役所であった。7月からの電力供給を目指す。

市や地元企業など計10団体で組織し、出資金6350万円のうち1千万円は市が出資した。代表社員は市内の濱田酒造の関連企業で酒類・食品販売

会社のパスポート(川崎市)。

計画では、工業団地内の工場の屋根に計約2千kwワット、市内の事業所などに計約1千kwワット、市内の一般家庭100軒ほどに計約350kw400kwワットの合わせて計約3400kwワットの太陽光発電装置を設置する。

7月に施行される再生エネルギーの全量買い取り制度を活用し、発電した電力や余剰電力を九州電力に売る。

パスポートの濱田総一郎社長は会見で「私どもの一歩は小さなものだが、環境維新の偉大な一歩になることを願ってスタートしたい」と述べた。

合同会社さつま自然エネルギー

会社設立 記者会見

メガソーラーの新会社

浜田酒造など 鹿児島島に装置整備

鹿児島県いちき串木野市、老舗焼酎メーカーの濱田酒造(同市、濱田雄一郎社長)などは17日、大規模太陽光発電所(メガソーラー)事業を手掛ける新会社を設立した。今夏から太陽光など再

生可能エネルギーの全量買い取り制度が電力会社に義務付けられることを踏まえ、九州電力に売電する計画だ。

新会社は、さつま自然エネルギー(同市)。いちき串木野市などのほか、地元水産加工業者な

ども合わせた出資額は6350万円。

メガソーラーは5月下旬、同市内の西薩中核工業団地で着工する。このほか、同市が所有する公共施設などにも太陽光発電装置(出力約1000kw)を設置する予定だ。総投資額は10億円程度を

2012年(平成24年)4月18日(水曜日)

新 日 報

太陽光発電の合同会社

いちき串木野 10団体で設立

いちき串木野市の焼酎メーカーなどが同市の西薩中核工業団地で進めている太陽光発電計画で、事業主体となる合同会社「さつま自然エネルギー」が17日、発足した。

合同会社は、地元の焼酎メーカー「濱田酒造」の関連会社「パスポート」(川崎市)が中心となり、市や水産加工会社など10団体で設立。出資金は6350万円で、うち1000万円は市が出資した。今後も協力企業などを募っていくという。

計画では、合同会社が事業費約10億円を投じ、同工業団地にある工場や市クリンセンターなど11か所の屋上に産業用太陽光発電パネルを設置。一般家庭約500世帯分を賄える出力約2000kwの発電を行う。い、すべて九州電力へ売電する予定。

また、同工業団地以外で

も、市内の複数の事業所や市施設の屋上で約1000kw、一般住宅100軒程度の屋根でも350kw400kwの発電を計画している。

この日、市役所で記者会見した濱田総一郎「パスポート」社長は「全国に向けて再生可能エネルギーの普及拡大の機運を高めていきたい」と意気込みを語った。